

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研 究 テーマ	「静岡こども学研究所」の取組と効果について：令和6年度の取組より				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	藤田 雅也
		所属・職名	短期大学部・特任教授	氏名	永倉 みゆき
		所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	松浦 崇
		所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	及川 直樹
		所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 学
		所属・職名	短期大学部・助教	氏名	崔 美美
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子

講演題目
「静岡こども学研究所」の取組と効果について：令和6年度の取組より
研究の目的、成果及び今後の展望
本研究の目的は、令和6年度に実施する「静岡こども学研究所」の取組を検討し、その教育効果を検討することである。本研究では令和6年度の取組から①「けんたんこどもの歌音楽会」と②「おはなし会」、③「県短子育て支援ひろば」の事後アンケート（Web形式）をもとに検討する。 ①「けんたんこどもの歌音楽会」（ムセイオンこどもプロジェクトとの共催） 対象：社会福祉学科・こども学科1年生 7名（回答6名） 結果：今回の音楽会で藤枝市の昔話（はなとりじぞう）を初めて知り興味を持ったことや、静岡の子どもの歌（森の水車、茶つみなど）を通して静岡の文化について改めて知ることが学生の学びになっていたことが示唆された。 ②「おはなし会」（小鹿図書館との共催） 対象：こども学科1年生 7名（回答7名） 結果：静岡県にゆかりのある書籍から学生自身が藤枝市の伝説物語「あおいけのだいじゃ」等を選定し、子どもたちと保護者に読み聞かせをした。調査結果から、子どもたちを話の世界に引き込むにはどうしたらよいか、読み方を工夫することの難しさを学んだことが示唆された。 ③「県短子育て支援ひろば」（静岡市子ども未来課との共催） 対象：i) こども学科2年生 30名（回答20名） ii) こども学科1年生 34名（回答33名） 結果 i) 11月10日の橘花祭でのひろばには約50組の親子、総計140名が参加する盛況ぶりで、学生は一緒に遊んだり出し物を行ったりした。調査結果から、実習では体験できない保護者との交流を体験できたこと、保護者との会話の難しさ、子育て支援センター職員の関わり方から学びを得たこと、出し物についての課題について学んだことが示唆された。 結果 ii) 12月2日のひろばでは「人形劇団わにこ」を迎え、合計25組の親子と交流した。調査結果から、わにこさんの話のしかたや音楽の効果がとても勉強になったこと、子どもたちと触れ合う喜び、手作りならではの温かみを実感したことなどが示唆された。